

禁光

737号

2021年7・8月
日本基督教団
田園調布教会
伝道部発行

〒145-0071
東京都大田区田園調布
3-34-18
電話 03-3721-2811
FAX 03-3721-2814
<http://den-church.jp/>

命のパン

出エジプト記 一六章一二〜一六節
マタイによる福音書 六章一一節

牧師 高橋和人

切実なパン

主の祈りの後半となりました。「わたしたちに必要な糧を今日与えてください」(マタイ六章一一節)という祈りから始まります。礼拝で用いる主の祈りの「日用の」は毎日必要ということですが。

主イエスはわたしたちが生きるためにどうしても必要なパンについて祈るようにと教えられました。ここにも主のまなざしが見えます。主イエスは集まった群衆に心をかけてくださいました。ある時は群衆が夕暮れになっても帰らないのを見て憐れみ、五つのパンと二匹の魚を取り、パンを裂いて群衆に与えられました。群衆は食べて満腹します(マタイ一四章一三節)。

同じようなパンの奇跡は新約聖書に六回出てきます。それだけ主イエスが御言葉を聞くために集まってきた人々のパンのことを大切に考えておられたのです。

それは、パンの切実さを主ご自身がよく知っておられるからです。

空腹の主

主は洗礼を受け、すぐ誘惑を受けるために荒野に導かれました。四〇日四〇夜の断食の後、空腹になります。その時主は誘惑を受けます。受けた誘惑の初めは石をパンにしているかどうかということですが。それは命のかかった選択です。四〇日の断食は想像もできません。命懸けのことです。主イエスは空腹のもたらす飢えを知っておられるのです。しかし、主イエスは「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」そう言われて、サタンを退けました。その答えは主が人の置かれるぎりぎりのところに立ってくださったことを示します。

わたしたちのパン

主の祈りは父についての三つの祈りと、わたしたちについての三つの祈りで構成されています。前半は神のため、後半は人のためです。

「わたしたち」と始まっています。複数形です。一人でなくそこに集まった人々が一緒

に共通に祈らねばならないこととして教えられました。空腹の人とか事情のある人のためだけではなく、教会全体の祈りです。食べ物心配がなければ祈る必要がないのではないのです。それぞれの祈りであると同時にみんなの祈りです。誰でも一緒になつて、人として祈るべき共通の祈りです。そのため主の祈りは教会で大切にされてきました。

しかし、このパンの祈りを深く考え、切実なこととして祈ることは案外少ないのではないかと思います。その一方で、世界は貧困と飢餓に満ちています。わたしたちが主の祈りを祈る時、そのような人々とも祈っていることが教えられています。

パンは日本語訳では糧と訳されます。毎日の食事の基本となる主食です。ごはんを訳す方が良いかも知れません。礼拝で用いる主の祈りで「日用」と訳されている言葉は、ほかに「日ごと」「必要な」「明日の」と様々に訳されます。この語は「本質」と「超えて」という字の組み合わせです。ただ食べ物というのではなく、そこに本質的な何か求められているのです。食べ物の本質は命にかかわることです。命は今日与えられなければならない、日々、そして明日も与えられなければならないのです。人は死ぬまで食べる必要があるのです。その意味でパンと命は結びついています。

荒野のパン

旧約聖書の出エジプトの民は、モーセに率いられてエジプトを脱出します。すぐに荒野に入りますが、そこでは食糧不足が待ち受けていました。すると彼らはつぶやき始めます。エジプトの肉鍋が恋しい、自分たちは墓のないところで死のうとしています。自由はなかったが食べ物とお墓は保障されていたのだというのです。これに対して主なる神は天からパ